令和7年郡山市議会第1回臨時会

閉会時 市長挨拶

令和7年郡山市議会第1回臨時会の閉会にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、御多用の中、御参集いただき、慎重なる御審議のもと、提出いたしました議案について御賛同を賜り、厚く御礼を申し上げます。

審議の過程で賜りました貴重な御意見や御提言につきましては、今後の予算編成、市政運営に反映してまいりたいと存じます。

さて、令和6年12月定例会において、折笠 正議員から本年4月の郡山市長選挙への出馬についてお質しをいただき、その際、「市長として日々職務に専念すべき状況にあることから、市長選について申し上げることは差し控えさせていただいたく。」とお答え申し上げます。

その後、私の去就に関し様々な報道があり、私自身も取材等に対して「議会答弁内容に特段の事情変更があった際にお話ししたい。」としてまいりましたが、議員各位に御参集いただいておりますこの機会に、今後のことについて所信の一端を申し上げさせていただきたいと存じます。

私は、2013年4月27日の市長就任以来、議員各位の御指導をはじめ、市民の皆様とともに考え、貴重な御意見をいただきながら、現実、現場、現物を重視する三現主義や子どもたちを政策の第一に据える子本主義などの理念の下、市政の一翼を担わせていただきました。

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故という未曾有の大災害からの復旧・復興はもとより、本市の有する人材や文化、産物、歴史遺産、産業や学術研究機関の集積など、その魅力や素晴らしさ、大いなる可能性を、国内はもとより世界に向けて発信するというミッションは、私のそれまでの知識や経験、人脈など、己の持てるすべてをかけて昼夜を分かたず取り組むべき、やりがいのある身に余る光栄な任務でありました。

また、人口減少、気候変動、デジタル化など、時代の大きな転換期に直面する中で、将来への予見可能性を高めて、先手先手で対応していく「フィードフォワード」の視点のもと、あらゆる世代の市民や事業者の皆様が自由に活躍でき、持続可能で、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じられる「ウェルビーイング都市・郡山」の実現を目指し、尽力してまいりました。

さて、世界に目を向けますと、各国でリーダーや政治体制が変わるなど、大きな転換期を迎えております。

デジタル化の進展は目まぐるしいものがあり、特にAIの進化は著しく、仕事のやり方や日常生活が今後数年間で劇的に変わると言われております。

また、価値観や発想の原点も多様化し、様々な分野の垣根がなくなり、まさに連携から融合へと向かっております。

そのような変化の激しい時代に、郡山市を今後100年、いや1000年先まで持続可能な都市としていくためには、若い力と、四次元思考のもとデジタル技術を積極的に活用し、市民の皆様はもとより、国内外のステークホルダーの皆様とボーダーレスに連携し、叡智を結集してまちづくりを進めていくことが、地方自治に携わるすべての者の共通の課題となっております。

幸いにも、私たち世代に対しても御理解くださり、さらには新たな発想や手法の下、次の100年の礎を築こうとする、経験豊かな世代も現れてきております。

以上の観点から、私といたしましては、今こそ市長としての任務、使命は、柔軟で可能性に満ちた次の世代に引き継ぎ、その活躍に期待すべきときが来たりとの認識に至り、本年4月の郡山市長選挙には立候補いたさぬことを、ここに表明させていただきます。

これまでの12年間、御指導、御叱正を賜りました議員各位をはじめ、多大なる御理解と御協力により、ともに歩ませていただいた市民並びに事業者の方々、そして苦楽をともにし一緒に汗をかいてくれた市職員の同僚の皆さんに、改めまして心からの敬意を表し感謝を申し上げます。

当然のことながら、任期満了までは、これまで以上の倍旧の努力をもって職務に専念し、一瞬たりとも空白を生じさせることのないよう、様々な課題に速やかに、かつ適切に任務を遂行してまいりますので、議員各位の御指導のほどお願い申し上げます。

これからも、郡山市民に脈々と受け継がれてきた「開物成務」の精神で、新しいリーダーの下に、わが郡山は新しい時代が切り開かれていくものと確信しております。

議員各位におかれましては益々御健勝にて、市政発展のため、一層の御尽力、御指導を賜りますようお願いを申し上げ、閉会の御挨拶といたします。

誠にありがとうございました。

※この内容は郡山市ウェブサイト「郡山市議会中継」の動画から引用したため、郡山市議会の公式記録ではありません。